

明治大学国際交流基金事業国際交流基金事業外国人学識者招聘プログラム

招請報告書

研究・知財戦略機構特任講師 眞島英壽

プログラム名：アポイントメントプログラム

招請外国人学識者：Alfred Pawlik

所属機関：University of the Philippines, associate professor

招請期間：2017年10月24日～11月2日

黒耀石研究センターでは黒曜石研究の国際連携を行っており、その推進のためフィリピン大より Pawlik 教授を招請した。2017年10月24日にフィリピンマニラから羽田空港に到着された Pawlik 教授を出迎え、駿河台キャンパスの国際連携事務室に案内して、諸手続きを行った。

10月26日に「Introduction to Traceology: Microscopic use-wear and residue analysis of prehistoric artefacts (使用痕研究入門：先史遺物の使用摩耗と残渣の顕微鏡分析)」と題した特別公開授業を開催した。実施には文学部考古学教室にご協力いただいた。授業は、ヨーロッパにおける使用痕研究の歴史に始まり、実験考古学的裏付け、観察に用いる機器の説明、観察方法の説明および具体的研究例など、石器の使用痕研究についての全般的内容を網羅する内容だった。参加した学生達にとっても使用痕研究の概要を把握することができ好評だった。

10月27日には、黒耀石研究センター主催国際ワークショップに参加するため来日した他の外国人研究者と共に、土屋学長を表敬訪問した。学長から黒曜石研究の国際連携について激励をいただいた。本学がフィリピンで語学研修を行っていることもあり、和やかな会談となった。

10月28日には、”COLS International Workshop 2017 Palaeoenvironment and lithic raw material acquisition during MIS2 and early MIS1: a comparative perspective”において”Human migration and maritime adaptation in the Philippine from the late Pleistocene to early/mid Holocene”のタイトルで後期更新世～前中期完新世に掛けてのフィリピンにおける人類の移動と海洋環境への適応について講演していただいた。この国際ワークショップにはオーストリア・インスブルック大の D. Schäfer 教授と S. Bertola 研究員も参加しており、ユーラシア大陸の東西、山岳地域と海洋地域、高緯度地域と低緯度地域といったさまざまな視点から活発な意見交換が行われた。また、ワークショップでは本学大学院生がポスターセッションを行い、Pawlik 教授には院生に対して柔らかい物腰で質問していただいた。夕刻からの懇親会でも、学部生・院生と懇談していただき、参加者に国際的視野が芽生えるきっかけの一つになったのではないかと思われる。

10月30日～31日にかけては、エクスカージョンとして長野県長和町の黒耀石研究セン

ターを訪れ施設を見学すると共に、広原遺跡を見学し、現地で意見交換を行った。

黒耀石研究センターは、極東地域ではロシア極東地質学研究所と協定を締結済みである。今回の Pawlik 教授の招へいで、この研究ネットワークを赤道付近のフィリピンまで拡大することができ、今後の黒耀石研究における国際展開について基礎固めをすることができた。

Pawlik 教授の招請に援助いただいた国際連携本部ならびに特別授業の開催に協力いただいた文学部考古学教室藤山准教授に感謝いたします。



国際ワークショップ参加者（後列左から3番目が Pawlik 教授）



広原遺跡エクスカーション参加者（左から2番目が Pawlik 教授）